



→雪の中のクロマツ 本校校章は松葉のデザインです。

一同が集う講堂淑式満つ

今年(巳^み)蛇の生命力の強さにあやかり、「巳」と音が同じ「実」から、成果の実る繁栄の年になることを期待しています。学校では一月八日に全校児童が体育館に会し、書き初め大会を行いました。ストーブを点けているとはいえ凜と張り詰めた緊張感の中、子供たちは一点一画に集中して渾身の一枚を書き上げました。毛筆の課題は、「日の光」「春を待つ」「強い決意」「花香る街」。これらの言葉に象徴される希望あふれる一年の始まりを共に迎えられたことをうれしく思います。

また、昨年末に吉報がありました。本校では三年前から生活科・総合的な学習の時間に、青木川を題材にした「清流学習」で課題解決学習を進めてきました。そして、この学びを充実させるために公益財団法人 河川財団の研究助成に応募し、水質検査キットや水中観察めがね等の購入、新たな知見を与えてくれる講師



【書き初め 十人十色の力作が完成しました】

の招聘、学校間交流や河川(青木川・矢作川・木曾三川)及び学習施設見学のための交通費(バス代)に助成金を充ててきました。助成期間は通常二年程度ですが、本校は三年連続で助成対象校となり、このたびは昨年度報告した実践と成果が認められ、二月十五日に東京の品川で開催される「令和六年度 河川教育研究会」で、実践発表と優秀成果表彰を受ける運びとなりました。これは、これまでの取り組みの成果が認められるという、まさに巳年にふさわしい実りの一つととらえています。

始業式の校長式辞では、なぜ勉強するのかを子供たちに問いかけました。そして、様々な解答がある中、「楽しいから学ぶ」という話をしました。人には本来、知りたい、できるようになりたいという欲求があります。それを仲間とともに機能的に達成できる学校は恵まれた場であると思います。新入生は、「早く勉強(国語や算数等の教科学習)したい」と言い、上学年は、社会科・理科・家庭科の授業、リコーダー等の新たな学習が始まるのを心待ちにしています。勉強嫌いは人との比較から生まれるのです。「人と比べて劣っている」と減点法で見ればかりいと、苦手意識が高まり学ぶ意欲の低下を招きます。しかし、一人を見つめれば必ず進歩があり、上達の手ごたえがあります。だからこそ、自分に合った目標をもって努力をいとわず、できるようになったことに価値を見出せば、誰もが本来もっている学ぶ楽しさやできる喜びを味わうことができるのです。校訓である「求めて励む」子供たちを育てるためにも、個人の成長を見つめた働きかけを大切にしていきたいと考えています。



【集中して書く年男の5年生】